

秋分の日を前に、
加計穏し、解散風!



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート

日本共産党議員団
2017.9.21. No. 1511.
御相談はお気軽に
TEL FAX とも **3905-0970**
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」, メガシティ近く)

選挙で政治を変えよう。

池内さおり衆院議員とともに

◎大型台風あとの猛暑となった、赤羽駅東口で。



9月18日(祝)



9.19 戦争法の強行から2年国会前



9月20日(水)午後4時半~
都議会開会にあわせ、都府前2ヶ所
4 都議会開会にあわせ、都府前2ヶ所アクション

◎憲法53条による野党の国会開会要求を、3ヵ月もたなざらしにしたあげくの、臨時国会冒頭解散は、「森友・加計」問題への最悪の疑惑深し。許せませんね。

日本共産党緊急街頭演説

赤羽駅東口

9月23日(祝)午後4時

志位和夫 委員長 きたる



弁士
衆議院議員
池内さおり
みなさんお誘いあわせて
おでかけください
ぞねはじめ都議もお話します

日本共産党

北区が桐ヶ丘分室をふくむ7つの区民分室全廃の方針を議会に示した。

◎9月15日の区民生活委員会と、日本共産党の野々山けん区議は、区民サービスの切り捨てにつながる廃止計画は中止するよう求めました。

◎赤羽西5丁目児童館の廃止についても、共産党は反対しました。

3つの区民事務所
7つの分室

出典:北区公共施設等総合管理計画(※配置は2017年1月1日現在のもの)

読者の皆様へ、先週の「さがらぼ」とのつき、本会議の質問です。

2. 多世代がともに安心して住み続けられる赤羽台団地に URとの連携・協力による地域医療福祉拠点のとりくみについて

⑦ 大きく2点目の質問は、多世代がともに安心して住み続けられる赤羽台団地とするため、UR都市機構との連携・協力による地域医療福祉拠点のとりくみについてです。

私はこれまで、本会議質問などを通じて、高齢化率50%を超える都営桐ヶ丘団地とUR赤羽台団地を、北区が提唱する「長生きするなら北区」のモデル地区として、東京都やURとの連携による施策の推進を提案してきました。

⑧ では、UR都市機構のすすめる「地域医療福祉拠点づくり」というのは、どういうことでしょうか。2013年(H25年)の閣議決定をうけて国土交通省は、「健康・医療・福祉のまちづくり推進ガイドライン」を発表。この中で、「超高齢化社会に対応した都市への転換は、都市規模の大小に関係なく、すべての都市において避けることができない政策テーマである」として、その推進体制構築の緊急性を指摘。その中で、大規模な団地をかかえるUR都市機構が、関係自治体とともに、お互いの情報を共有して協議し、住民の合意形成を得ながら、超高齢化に対応したまちづくりを推進することを指示しました。

これを受けてUR都市機構は、「超高齢社会における住まい・コミュニティのあり方」の検討をすすめるとともに、政府の地域包括ケアシステムの構築と住宅セーフティネットの方針のもと、平成32年、2020年までに全国のUR賃貸住宅団地のうち、100の団地で「地域医療福祉拠点」を整備する」という方針を打ち出したのです。

これについてURは、地域に不足している在宅医療福祉施設などを団地内に誘致して地域医療福祉拠点をづくり、UR賃貸住宅だけでなく、地域包括エリアなど、周辺地域へも医療・介護サービスを提供する体制をつくる」ということであると説明しています。そして、そのモデル団地として紹介されているのが、建替え事業を進めている千葉県柏市のUR豊四季団地であり、既存住宅でのとりくみとしては板橋区のUR高島平団地です。

URの新たな動きのもと、すでに、豊島5丁目団地では、2014年、(H26年)3月から、団地内の空き店舗活用による居宅介護支援、認知症グループホームと小規模多機能型居宅介護、さらにはデイサービス、福祉用具の販売・レンタルの店舗も開設されています。

こうした中で、北区は今年3月29日、「人が輝く、まちが輝く、未来が輝く、ふるさと北区」の実現にかかる連携・協力に関する協定」をUR都市機構と締結しました。その具体的な取り組みとして、UR王子5丁目団地の集会所を活用したふれあい交流サロンをはじめるとともに、区内の4つのUR団地、王子5丁目、豊島5丁目、神谷堀ハイツ、ヌーヴェル赤羽台を北区における地域医療福祉拠点化団地に位置づけ、その理念の実現に向けた取り組みの推進を内外に表明しました。

“多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち”を
地域の関係者の方々と連携・協力し、支えていきます。

UR都市機構の
説明資料
です。



質問1. 住民の方から寄せられている要望と基に
北区として全庁的な検討をおこない、
UR都市機構と協定にもっと建設的な
協議をおこなうことを求めました。

- ① 多床室のある特養ホーム、小規模多機能型居宅介護、グループホーム、区営シルバーピアを未活用地に。また、テニスコートや子どもがボール遊びできる広場を。
- ② 校舎建設から56年の赤羽台西小学校の改築の際には、学校関係者や住民と協をあわせ、UR用地との等価交換などの方策を含め、用地確保の協議を行うこと。子どもたちの負担を減らし、安全のためにも。
- ③ くらげ公園やけやきなどの環境生かし、保育園の園庭を広げてはどうか。
- ④ 「スターハウス」をサロン活動の場とするなど、次世代に引き継ぐ、シンボルとしてゆくこと。
- ⑤ 桜並木の復活をはじめ、みどり豊かな団地に。